ギャラリー（展示）

gallery exhibition

ロビーギャラリー

10/28（水） 15:00-21:00
10/29（木）・30日（金）・31日（土） 11:00-21:00
11/1（日） 11:00-15:00

アーティストが生み出す作品が鑑賞者にもたらすイメージの力を借りながら、言葉とは違ったアプローチで本会議の主要なテーマを探る作品を展示します。あわせて、だれもが文化芸術を楽しむことができる環境創出を試みる都立の美術館、博物館、コンサートホール、劇場を知る展示やテーマに関連する取り組みなどを紹介します。

主な展示

「ありふれたくじら」 是恒さくら

鯨とともに生きる文化を見つめ、丁寧に綴られた物語や刺繍による作品は、東北やアラスカなど世界各地の人々の暮らしと鯨の日常的な関係性を伝えます。私たちはそこから、あらためて文化のスケールを見直すことができます。



《泳ぐ木》撮影：根岸 功

「共に在るところから／
With People, Not For People」
青木 彬、碓井ゆい

100年以上の歴史をもち、セツルメント運動の拠点でもあった福祉施設「興望館」。その実践のなかに、人々が地域においてよりよく生きるためのヒントを見出し、ワークショップを通じてアート作品としました。



撮影：加藤 甫

「わたしは なれる」 サンギータ・ジョギ、タラブックス

ペンで描かれた原画が、デザイナーやカラリスト、製本職人などの手仕事を経て、色鮮やかな一冊に結実するまでのバトンリレー。そこから生まれたシルクスクリーン画や絵本を展示します。



Ladies Rock ー「女たちが最高」3人ならパーティ、12人ならディスコ

「時の蘇生・柿の木プロジェクト」 宮島達男

「被爆柿の木2世」の苗木を植樹し、世界中の子どもたちに命と平和への願いを手渡してきた30年にわたるプロジェクト。異なる地域や宗教、人種や言葉を超えたこの活動を、ともに生きる文化（クリエイティブ・ウェルビーイング）の視点で捉えます。あわせて、「時の海ー東北プロジェクト」についても紹介します。



「へびと地層」 瀬尾夏美

令和元年東日本台風で被災した宮城県丸森町で、住民とのやりとりと伝承民話のリサーチから生まれた「やまのおおじゃくぬけ」を中心に、各地の災害や戦争の記憶継承を担う表現のあり方や、対話の可能性を考える作品群を展示します。



「もしもディスレクシアの小学生なら」

読み書きに困難のある学習障害「ディスレクシア」の当事者が直面している状況を、小学校の教室を舞台にしたVR映像で擬似体験することができます。

※このVRはディスレクシアの見え方を再現するものではありません。VR体験の実施時間は公式ウェブサイトをご確認ください。



「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの歩み」

「都立文化施設の取り組み」

「TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム」

「オールウェルカムTOKYO キャンペーンの成果」

ギャラリープログラム

トーク「興望館セツルメントから考えるウェルビーイングとアート」
10/28(水)16:00-17:00
登壇者｜青木 彬（インディペンデントキュレーター、社会福祉士）、碓井ゆい（美術作家）

トーク「もしもディスレクシアの小学生なら」 10/29(木)17:00-18:00
登壇者｜小助川雅人（資生堂）、藤堂栄子（EDGE 会長）

ワークショップ「音さがしの人」 10/28(水) 19:00-20:00／20:00-21:00
アーティスト｜黒川 岳

ワークショップ「音楽つくりやさん by TURN LAND」 10/29(木)19:00-21:00
アーティスト｜井川 丹、田中文久、富塚絵美

音声コード Uni-Voice

上のマークは音声コード Uni-Voiceです。
専用アプリで読み取ると、内容を音声で聞くことができます。

参加申込み概要

apply here

プログラムへの参加には、公式ウェブサイトからの申し込みが必要です。

申し込みは左のQRコードから URL:https://creativewell.rekibun.or.jp/creativewell-conference/2026.html

各プログラムには定員がございます。定員に達し次第、受付を終了します。
なお、満席となったプログラムにキャンセルが出た場合は随時空席情報を更新し、予約受付を再開いたします。

※ワークショップ「わたしの『わたしは なれる』の旗をつくる」は、参加にあたり選考がございます（応募締切9月24日(木)）。
詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

アクセシビリティ

会場について
会場内は自由席です。
すべてのプログラムに車いすでご参加いただけます。
ホールB5、ホールD5のホワイエにカームダウンスペースを設置しています。
ホールB5、ホールD5、ロビーギャラリーの受付にセンサリーキットをご用意しています。
会場のバリアフリー情報については、東京国際フォーラムのウェブサイトもご覧ください。
https://www.t-i-forum.co.jp/access/barrier_free/

情報保障について
ホールB5プログラム：日本手話通訳、国際手話通訳、日英同時通訳、日英字幕
ホールD5プログラム：日本手話通訳、日英同時通訳、日英字幕
ロビーギャラリープログラム：日本手話通訳
スタッフは筆談での対応が可能です。

ライブ配信について（要申込み）
カンファレンス（ホールB5）のプログラムはZoomによるライブ配信がございます。
公式ウェブサイトの「オンライン視聴参加フォーム」からお申し込みください。
なお、アーカイブ配信はございません。

開催概要

会期｜2026年10月28日（水）～11月1日（日）
会場｜東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3丁目5－1）
主催｜東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

参加費無料（要申込み）
使用言語：日本語、英語、日本手話、国際手話
※同時通訳、字幕あり（国際手話はホールB5のみ）

お問い合わせ

だれもが文化でつながる国際会議2026運営事務局
電話｜050-1743-6392　FAX｜050-3537-2045
メール｜info-cwt2026@jimukyoku-public.jp
受付時間｜平日10:00～18:00
（土、日、祝日を除く。会期中10月31日（土）、11月1日（日）は受付）
会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

アクセス

JR線
有楽町駅より徒歩1分、東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）

地下鉄
有楽町線有楽町駅（B1F地下コンコースにて連絡）
千代田線二重橋前駅・日比谷駅、丸ノ内線銀座駅、
銀座線銀座駅・京橋駅、三田線日比谷駅より、徒歩5～7分

キービジュアルコンセプト

野生のクレマチスで形づくられたアルファベットと、印刷した紙に偶然落ちた水滴によって生じたインクの滲みを用いたキービジュアルは、マルチスピーシーズの世界観を喚起する。精神病院の患者たちとフランソワ・デディとの協働によるこのアルファベットの制作過程そのものが、本会議のテーマ「Moving Together」を体現している。

デザイン：樋口舞子　「Clementite」書体制作：フランソワ・デディ／Silly Type Foundry

gallery. conference symposium network exhibition

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT　ARTS COUNCIL TOKYO　Creative Well-being Tokyo Open Access to Culture Project

CREATIVE WELL-BEING TOKYO

creative well-being in tokyo 2026

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
だれもが文化でつながる国際会議 2026

MOVING TOGETHER
ともに生きる文化

moving together

2026.10.28（水）- 11.1（日）
東京国際フォーラム TOKYO INTERNATIONAL FORUM

音声コード Uni-Voice

上のマークは音声コード Uni-Voiceです。
専用アプリで読み取ると、内容を音声で聞くことができます。

MOVING TOGETHER
ともに生きる文化

「だれもが文化でつながる会議」は、東京都とアーツカウンシル東京が取り組む「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環として、2022年から行われてきました。5年目となる今回のテーマは「Moving Together ともに生きる文化」。これまでの歩みを振り返りながら、一人ひとりがよりよく生きるために、芸術文化になにができるのかを考え、これからの共生社会のあり方とウェルビーイングの姿を探求します。
近年、さまざまな分野・文脈でウェルビーイングが注目され、個人としての幸せの理想像が語られるようになりました。しかし気候危機や災害、紛争やパンデミック、テクノロジーの急速な進展など、複雑で変化し続ける世界のなかで、「well(よく)being(あること)」は、個人に結びついているだけでよいのでしょうか。ウェルビーイングのイメージが揺らぐいま、わたしたちを取り巻くあらゆるものとの関係性を編みなおす芸術文化から、この言葉の意味を捉え直し、ここ東京から世界へ「ともに生きること」の考え方を発信します。

カンファレンス
ホール B5 | 10/30 (金) -11/1 (日)

ライブ配信あり

各界で活躍するアーティスト、研究者など、多岐にわたる実践者を迎え、5つのテーマを設けて、参加者とともにウェルビーイングを読み直していきます。3日間にわたるカンファレンスでは、2名のモデレーターが各セッションに伴走し、識者たちが交わす先鋭的な対話のバトンを、次の登壇者や参加者へとつなぎます。クロージングセッションでは、それまでの回でなされた議論とアイデアを包括し、これからのウェルビーイングを生み出す芸術文化の役割を、東京から発信します。



モデレーター
堀内奈穂子
Horiuchi Naoko
アーツイニシアティヴトウキョウ
[AIT/エイト]キュレーター、
「dear Me」プロジェクトディレクター、保育士



モデレーター
ロジャー・マクドナルド
Roger McDonald
アーツイニシアティヴトウキョウ
[AIT/エイト]キュレーター、美術史家

撮影:Takizawa Sayaka

音声コード Uni-Voice

左のマークは音声コード Uni-Voiceです。
専用アプリで読み取ると、内容を音声で聞くことができます。

プロローグ＆オープニングセッション
芸術文化がつむぐ明日

10/30 (金)
18:30-21:00



オープニングスピーチ
梶谷真司 Kajitani Shinji
東京大学大学院 総合文化研究科 教授、
共生のための国際哲学研究センター(UTCP) センター長

プロローグでは、オープニングスピーチのあと、これまで数年間にわたる「だれもが文化でつながる会議」の議論の歩みをたどり、オープニングセッションへとつなぎます。複雑で変化し続ける社会において、ウェルビーイングは個人の内側に閉じるのではなく、他者や環境、そしてより長い時間のなかで捉え直されつつあります。人間中心にとどまらない眼差し(=マルチスピーシーズ)をもって場をひらき、自然や都市と人間生活との間で実践や研究を重ねる登壇者が、これからの時代の芸術文化のありようを問いかけます。



鴻池朋子
Konoike Tomoko
アーティスト



小山田 徹
Koyamada Toru
芸術家、
京都市立芸術大学 学長



齋藤百合子
Saito Yuriko
ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン 名誉教授

10/31 (土)
セッション1
10:00-12:00

しなやかな共助

天災や予測の事故で、慣れ親しんだ場所やあたりまえの状況が一変し、その環境に身を置かざるをえないとき。人と人とのコミュニケーションやケアのあり方を問い直すとき。気鋭のアーティストや研究者たちは、どのように目の前の状況を読み解き、これまでとは違う関係性を編んでいくのか。しなやかな共助から生まれた事例から、ともに生きる文化のあり方を探ります。



森下 有
Morishita Yu
研究教育者、
東京大学生産技術研究所 特任准教授



瀬尾夏美
Seo Natsumi
アーティスト、作家

撮影:Ikeda Hiroshi



クリスティン・ウォン・ヤップ
Christine Wong Yap
ビジュアルアーティスト、社会実践者

11/1 (日)
セッション3
10:00-12:00

Moving Together 夢とともに生きる

社会や文化、時代の情勢は、ときに「わたし」の自由や尊厳を阻もうとしますが、それでも人は、希望を見出し、生きる道を模索することができます。異なる土地や境遇のなかで創造と実践を積み重ねてきた登壇者たちは、夢を抱きながらそれぞれの経験と想像力を他者へと手渡してきました。「わたし」の夢が他者の夢へとつながった一連の事例を通して、人の尊厳について語ります。



サンギータ・ジョギ
Sangita Jogi
アーティスト



小林エリカ
Kobayashi Erika
作家、アーティスト

西 加奈子
Nishi Kanako
作家、アーティスト





ギータ・ヴォルフ
Gita Wolf
タラブックス代表

撮影:若木信吾

10/31 (土)
セッション2
15:30-17:30

アイデンティティと文化

わたしたちの社会では、文化や歴史、身体、土地、周囲とのかかわりなど、多様な要素のなかで「わたし」をかたちづくっています。しかし社会の「あたりまえ」は、ときに誰かを沈黙させ、文化やルーツを見えなくしてしまうことがあります。当事者として創造的・学術的な実践を続けてきた識者と、ともに生きることに潜む困難や緊張、そして対話や表現の可能性を考えます。



ジュマナ・エミル・アブード
Jumana Emil Abboud
ビジュアルアーティスト

撮影:岩根 愛



北原モコットゥナシ
Kitahara Mokottunas
北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授



松﨑 丈
Matsuzaki Jo
宮城教育大学 教授

11/1 (日)
クロージングセッション
15:30-18:30

クリエイティブ・ウェルビーイング ともに生きる文化

複雑で変化し続ける社会に対し、芸術文化のはたらきが生む「クリエイティブ・ウェルビーイング」を東京から発信します。マルチスピーシーズな世界認識に始まり、共助、アイデンティティ、尊厳の観点へと展開した議論を、アートや文化政策に精通した登壇者が受けとめ、未来に向けて提言します。



青柳正規
Aoyagi Masanori
アーツカウンシル東京 機構長

撮影:Hirama Itaru



小池一子
Koike Kazuko
クリエイティブ・ディレクター

撮影:Hirokawa Taishi



宮島達男
Miyajima Tatsuo
現代美術家

写真:Lisson Gallery Milano



ジャスティーン・サイモンズ
Justine Simons OBE
ロンドン市副市長
(文化・クリエイティブ産業担当)

撮影:Rankin

スタジオ(ネットワーキング)
ホール D5 | 10/30 (金) -11/1 (日)

Studio: Networking

登壇者と参加者が同じ場に集まり、トーク、パフォーマンス、ワークショップなどを通じて、ともに声を出し、身体を動かし、語り合う時間を過ごします。表現を媒介に互いに影響し合うなかで、ウェルビーイングが「わたし」から「わたしたち」へと広がっていく感覚を共有します。

10/30 (金)
12:00-17:30

オープンミーティング

ろう者と聴者の遭遇、
そこから生まれたもの

異なる言語と文化をもつ「ろう者」と「聴者」が、お互いへの理解を急がず、時間をかけて出会う経験から、何が生まれたのか。東京2025デフリンピックの文化プログラムとして制作・上演された『黙るな 動け 呼吸しろ』における協働のプロセスのなかで生じた課題と発見を語ります。創作にかかわったコアメンバーが、自身や周辺に起きた変化や兆しを言語化し、今後の可能性につなげます。



第1部 12:00-15:00 身体と空間と表現

演劇の空間演出を、劇場内のみならず都市空間にまで拡張するセノグラフィの視点を共有し、ろう者と聴者の身体性の違いを前提としたこれからの劇場のあり方や、舞台芸術におけるろう者の人材育成について考えます。

登壇者|常境、木藤 歩、牧原依里、山口英峰
ゲスト:杉山 至　モデレーター:長島 確

第2部 16:00-17:30 ろう者の「オンガク」

聴覚で認識する音楽とは異なる、ろうコミュニティから生まれる「オンガク」の概念や世界観を共有し、公演制作を経て深まったその探求の成果を話し合います。

登壇者|常境、松﨑 丈、横尾友美　モデレーター|牧原依里

10/31 (土)
13:00-15:00

ワークショップ

わたしの「わたしは なれる」の旗をつくる

インドで生まれ、海をわたってきたタラブックスの絵本『わたしは なれる』(green seed books, 2025年)のことばをもとに、参加者それぞれの「わたしは なれる」を絵に描き、一緒に旗をつくるワークショップです。本書に描かれている夢は、その場にいる人々とどのように響き合うのか。「わたし」から「わたしたち」への旅を、作者・翻訳者とともに体験します。

アーティスト|サンギータ・ジョギ　ファシリテーター|小林エリカ

※本ワークショップは、「わたしは なれる」に共感する方のご参加をお待ちしております。
応募多数の場合は、選考とさせていただきます。



絵本:サンギータ・ジョギ『わたしは なれる』(green seed books, 2025年)

10/31 (土)
18:00-19:00

11/1 (日)
14:00-15:00
(2回公演)

レクチャーパフォーマンス

『聴者を演じるということ 序論』

観客は今まで「個人」とされてきた「聴者」がカテゴリーで括られることを目撃する。演じる人はろう者役者の數見陽子と山田真樹。ろう者の身体で演じられる「聴者」に、私たちはどこまで言及することができるのか。演じる者と演じられる者、その関係を超越し、分かち合うことは可能なのか。(公式作品解説より)

演出|牧原依里
出演|數見陽子、山田真樹



11/1 (日)
10:00-12:30

上映・トーク

舞台『TRAIN TRAIN TRAIN』
映像上映&トーク

2025年秋に東京芸術劇場で上演された舞台『TRAIN TRAIN TRAIN』の定点収録映像(高画質記録)を上映します。東京2020パラリンピック開会式のレガシーを受け継ぎ創作されたこの作品について、アクセシビリティディレクションと振付・演出を担った二人が、創作の舞台裏と作品の魅力を語ります。

登壇者|栗栖良依、森山開次



各プログラムの登壇者はアルファベット順。

音声コード Uni-Voice

右のマークは音声コード Uni-Voiceです。
専用アプリで読み取ると、内容を音声で聞くことができます。